

# つばめだより

第28号 <2016年1月発行>



《発行》  
社会福祉法人 つばめ会  
つばめ保育園  
〒270-1121 我孫子市中峠 3047-1  
TEL & FAX 04-7187-5005  
Mail info@tsubame-net.sakura.ne.jp

## 新年おめでとうございます

昨年中は大変お世話になりました。  
本年もどうぞよろしく願いいたします。



2016年 元旦

昨年の長期予報では暖冬と報じられておりましたが、さすがに12月中旬より関東にも寒波が押し寄せ、12月19日のテレビでは富士山の冬景色の象徴でもある“紅富士”が紹介され、映像とはいえその美しさに見とれてしまいました。12月20日の朝には薄氷が張り始めました。我が家の生け垣の山茶花も、私の出番ですよとばかりに花が咲きそろう、忙しい日々の中で朝のわずかなお茶の時間に私の目を和ませてくれます。

先日子どもたちが、日当たりのよい園庭の土をシャベルで掘っていたらつくしを見つけ、ズボンのポケットに入れて持ってきて、「びっくりしたよ！」と見せてくれました。

世界的に異常気象のようで、ベルリンでは桜が咲いているそうです。早春に顔を出す草木が、まだ冬が始まりだしたばかりの12月に…何ということでしょう。四季の移ろいが、異常な気象変動により狂い出してきている証といえましょう。

晩秋の木々で最後の頃に葉を落とす“銀杏”は、何とも美しい黄色に染まったあとに、北風に吹かれて舞い落ちる様は見事なものです。子どもたちとよく出かける公園で、しばし、銀杏の黄色に染まった落葉に寝転んだり、拾い集めたり、追いかけてこしながら落葉を掛け合って楽しみました。



切り絵「さるかに」 年長児共同製作 2015.11月

吉野弘氏の詩を紹介しましょう。

短日

葉を押し大銀杏の  
休暇の取り方

どこか慌てて旅立ったりしない  
同じ場所で静かな休息

自分が逃げ出したりしないで  
自分に同意している育ちの良さ

裸でいても

悪びれず

風のある日は

風を着ぶくれています

この詩を読み、風に舞い散る銀杏のあの巨木の周り  
を無邪気に遊ぶ子ども達と重なります。子どもたち  
だっていつも明るく元気とは限らず、時には顔を上げ  
ず瞳を曇らせて泣きじゃくる時も、暴れて自分の気持  
ちを表出することだってあるのです。

午前中は保育者と仲間たちと遊び、お昼ごはんの後  
紙芝居やお話を読んでもらった子ども達はお昼寝とな  
り、静かに眠りにつき穏やかな寝顔を見せてくれます。  
その穏やかな寝顔は、私たちに安堵のひと時を与えて  
くれます。すべての命あるものは、一日一日を懸命に  
生き続けているのだということを一編の詩から強く感  
じたのです。

## ザリガニと共に遊んだ夏、そして秋も

初夏には沢山の生き物たちが盛んに活動し、朝から  
夕暮れ時まで様々な虫たちや小動物、と子どもたちも  
共に生きるのです。

夏休みには卒園した学童さん達と一緒に、年長児た  
ちは「アリのままでいたい」という映画を見ました。  
『昆虫は人間よりも遥か昔から地球に存在して生き抜  
いてきました。』

私達の身近にいるのに知ることがなかった昆虫たちの生き様。そこには私たち人間の想像を超えた未知の世界が。

この映画は世界で初めて昆虫の目線から撮影された大スペクタクル3Dムービーです。大自然を舞台に昆虫たちの命を懸けた壮絶大バトル。厳しい自然の中で短い命を必死に生きていこうとする生き物たち。撮影は長野県在住の昆虫写真家栗林慧氏です。』(映画パンフレットより) 迫力あるその映像に、子ども達は釘づけになるほどでした。



クワガタやカブト虫、ザリガニ、カエル等、様々な小動物との出会いは、戸外に出ると果てしなく続く遊びです。今夏はとりわけザリガニとの生活が長く続き、子ども達は70匹の仲間たちのお世話をし、遊び、遊ばれているうちに、ザリガニの中でも真っ赤な体と大きなはさみを持った真っ赤チンを持つことができるようになり、土山を共に歩いたり、流しソーメンをやった後の竹に流してみたりと、小さな子どもたちも遊び込んだのでした。そのザリガニは、つくば市のゆかりの森の池まで足を延ばして釣り上げたのでした。

季節が代わり秋も深まった11月の中頃に、我孫子市の宮の森公園の用水路でまたまた発見したのは小さめのザリガニでしたが、網をもって4日間通い夢中で採り続けました。その集中力はさすがだなと、子どもたちの成長をこんな遊びの中でも感じることができました。なかなか11月にザリガニと出会うことは、長い保育者生活の中でもありませんでしたが、秋も暖かかったのでのんびりと泳いでいたのかもしれませんが。

自然と共生して仲間と一緒に遊ぶ事が、どれ程この幼年時代に大切かということを感じられたこの秋の保育でした。

『生活や遊びの中で、家庭でも園でもいっぱい褒められ共感されたこどもは、未来を力強く生きていきます。自分の事を大事にされた人でないと人に優しくできないのです。子どもが「大事にされた」「優しくしてもらった」と感じるのは、自分が夢中になっている事や好きなことに共感してもらって、日々生きていく事がどんなに大切なことでしょうか。やがてそのように育てられた子どもは、ひとに対して優しくなれるのです。』(「クーヨン」2016年1月号)と子育ての基本を語っているのは、東京家政大学ナースリールーム主任保育士の井木行容子さんです。

年長児4名は夏につかまえたザリガニを、8月末に観察画に表現しました。



### ♪青い空は 青いままで♪

小森香子さん作詞、大西進さん作曲の“青い空は”の歌は長い間歌い継がれてきましたが、ここにご紹介します。

1. 青い空は青いままで 子ども等に伝えたい  
燃える八月の朝 影まで燃え尽きた  
父の 母の 兄弟達の命の重みを  
肩に背負って 胸に抱いて
2. 青い空は青いままで 子ども等に伝えたい  
あの夜星は黙って 連れ去って行った  
父の 母の 兄弟達の命の重みを  
今流す灯籠の 光に込めて
3. 青い空は青いままで 子ども等に伝えたい  
全ての国から いくさの火を消して  
平和と 愛と 友情の命の輝きを  
この堅い握手と 歌声に込めて

この「青い空は」を夏頃に、まず保育者たちが歌い出しました。その頃「安保法案」の成立に安倍内閣がやっきになり、国民の声に背を向けていたのです。次に子どもたちも歌いだし、お母さん達にも広め、8月末の夏まつりにこの歌で踊れないものかと地元の盆踊りの会のリーダーの方に相談したところ、「とてもいい歌だからみんなで踊れるように振付しましょうね」と振りをつけてくださいました。子ども達は和紙を染め、保育者がそこに『LOVE & PEACE』と書き、可愛い鈴をつけ、団扇を作りました。

今年のつばめ夏まつりでは、いくつかの盆踊りと共に手作り団扇をもって“青い空は音頭”を踊りました。戦後がずっと続き、子どもたちの未来が平和であってほしいと願う踊りの輪になりました。

## 吉永小百合の祈り

「吉永小百合の祈り」という本が12月に出版され、早速手に取ってみました。

NHKの番組の一つ「NHKアーカイブス」で、吉永小百合さんをゲストに招き、インタビューと「原爆詩」を語り継ぐ姿を記録した模様を書籍としてまとめた本です。吉永さんの“平和への祈り”を一層伝えられるように、時間の関係で放送では割愛した部分も加筆して一冊の本になりました。(新日本出版社)  
装丁は純白の表紙に1輪の花“ヒナギク”。ヒナギクの花言葉は一平和一。

日本を代表する大女優でもある吉永小百合さんは、長い年月広島、長崎に続いて今は福島原発による被害者の方たちの詩も、全国各地に足を運び“平和への祈り”の朗読を続けているのです。

### 「帰り来ぬ夏の思い」

下田 秀枝

#### 1. 黒い雨の降りしきる中

ぼくは母さん探しています  
のどがからから  
水が欲しいよ 母さん  
やけどの手足が  
ひりひり痛いよ 母さん  
さっきの青空  
どこへ消えたの 母さん  
母さん 母さん 母さん  
お願い 返事をしてよ 母さん  
なんだかぼくは  
もうぼくでなくなるよ

#### 2. 炎の雨が降り注ぐ中

ぼくは母さん探しています  
回りがだんだん  
熱くなっていくよ 母さん  
ぼくのおうちは  
どこにいったの 母さん  
さっきの話の  
続きをしてよ 母さん  
母さん 母さん 母さん  
早くここへ来て ぼくを抱いて  
もうじきぼくは  
もうぼくでなくなるよ

### 3. 目を閉じてごらんさい

見えるでしょう 炎と灰に埋もれる街  
聞こえるでしょう  
母と子どものすすり泣き  
帰り来ぬ夏の  
あの呪い あの思い

吉永さんは原爆詩の朗読会で、子どもたちにも朗読の機会を作る試みもされて、平和への祈りを受け継いでいてもらいたいと思っているそうです。

「子ども達はまだすべてを理解して朗読することは難しいかもしれませんが、“子どもなりの受け止め方を信じて”行っています」と吉永さんは語っております。

「帰り来ぬ夏の思い」を朗読したのは、小学2年生の男の子でした。子どもたちへの深い信頼がなければ実現できない事であり、大人の生きる姿勢として深く学ばされました。



マイナスイオンをたっぷり浴びています。

## 安心安全な社会であるために

2015年「今年の漢字」は「安」が選ばれました。清水寺の管主は「国内外の問題による命に対する不安からこの字が選ばれたのではないか。来年こそ、安心安全な国社会を創ろうという思いが溢れている」と話しておられました。

安倍内閣は、9月19日には安全保障関連法を強硬に成立させていました。しかし「戦争をする国にはしない」「誰の子どもも殺させない」「戦争法は廃案」という国民の切望は大きなうねりとなり、自発的行動となって現れたのです。全国各地でデモや集会が繰り広げられ、呼応し合って未だにその行動は途切れることはありません。

中でも自分たちの問題として、学生やママさん達等の若者が時の政権の暴走に警鐘を鳴らし、若いエネルギーが大勢の参加者の中心となり広がっていったのです。なんと流行語大賞の候補の中にそれに関連した言葉が数多く入っていたのも新しい社会現象を物語る



マリンバの演奏に  
聴き入る子ども達

いると思います。トップ 10 の中に「アベ政治を許さない」が入っているのです。

安保法成立後 3 ヶ月経った 12 月 19 日には、高校生が東京と大阪でダブルデモを行ったというニュースを新聞で知り、何と心強いことかと嬉しくなりました。

「私たちの未来に安保法制はいりません」の訴えが、師走の冬空の下に響いたと報じられていました。

## 2016 年の新年を迎えるにあたって

前進座公演「龍の子太郎」



クリスマスブーツの絵  
(年長・けいじくん)



前進座「龍の子太郎」の公演を、12 月 6 日に北本文化センターで、子ども達やその親達と観て来ました。

沢山の親子で賑わっていましたが、劇が始まるとシーンと静まり舞台に集中していくのが会場の空気からわかりました。

なかなか実現できなかった上演をかってでて下さった鴻巣ひかり幼稚園の卒園生の皆さんのご努力に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

松谷みよ子さんの名作である「龍の子太郎」は、毎年年長児の卒園期に語り続けてきましたが、前進座がどのような舞台に仕立てていくのだろうか、私もわくわくと心が弾みました。

簡単な舞台装置なのですが、次から次へと想像力を膨らませてくれる演出は「あっぱれ！」でした。時には笑いも会場を包み、龍の子太郎の身の上にかかる困難を、様々な登場人物や動物たちと共に、歌や踊りや太鼓や笛なども大きな役割をもって舞台を作り上げていました。

どこまでも自分の母親を求め抜いて旅を続け、最後に山深い北の湖で龍となった母親と出会い、太郎は龍の母の眼になり、山を崩しみんなが暮らせる広い畑や田んぼを作り上げるこのお話は、子どもたちにどれほどの勇気を与えてくれたことでしょうか。

劇中で何度も太郎が「お母さん！」と精魂込めて、客席に向かって叫びかけるその声が今でも耳に残っています。こんなに母親という存在は子どもから愛を求め抜かれているというのは、今も昔も同じであると胸に飛び込んできました。

そして、舞台を見ている子どもたちの「もっともっと可愛がってもらいたい」「もっと褒めてもらいたい」という気持ちに深く共感してくれた太郎の「おかあさん！」は、子どもたちの心にも届いたと思います。

龍のお母さんから人間のお母さんに戻る場面はやっぱり圧巻でした。見事なまでのその美しい変身に、諦めずに力を出しければ、こんなに素敵に生きていけるんだという夢を運んでくれたフィナーレでした。きっと子ども達は、ぼくも私も太郎のようになりたいと、強い思いを胸に刻んだのではないかと、その表情から感じました。

いよいよ 2016 年の幕開けです。

子どもは社会の宝です。

どんなことがあっても、子どもたちの生命が輝き続けるため、そして決して命を奪われない社会を残すことができるよう、この 1 年の歯車を大きく平和の道へと進めるように力を合せましょう。

2015 年 12 月 20 日

園長 横橋 郁子

## ～ ご 案 内 ～

「2015 年度卒園を祝う会とお祝いコンサート」

と き：平成 28 年 3 月 27 日(日)

午前 9：00 開式

ところ：つばめ保育園ホール

## ～ 急 募 ～

《保育士 若干名》

保育士を募集しています。

正規、パートのどちらでもよろしいです。

性別、年齢は問いません。

希望される方は下記までご連絡ください。

【つばめ保育園/TEL&FAX (04) 7187-5005】